

宗教と美術

1. 担当教員

- ・ 名前: 宮崎 正美(みやざき まさみ)

2. 授業の目的

(1) 授業の目的

宗教的美術の理解だけでなく、美術のもつ宗教性から人間存在について理解できるようになる

(2) 到達目標

- ① 芸術一般および美術が宗教性と切り離せないことの理解
- ② キリスト教美術の特異性とその思想についての理解
- ③ 人間の視覚的情報処理から「異界」との接触の特徴について理解する

(3) ディプロマポリシーとの関連

人間学部のディプロマポリシー「(1) 本学の教育の理念であるキリスト教の精神に基づいた人間の理解や援助に関する専門的知識と 社会の変化に積極的な対応ができる能力として判断力・思考力・実践力」を身につけることを念頭におきながら、「(2) 共通科目の多角的学際的な学び」の基礎課程を形成する。そのための題材として「自然・人間・社会等について幅広い知識を探究する能力と専攻分野にとらわれない広い視野」(同)を得られるように考察を進める。

3. 授業の概要

美の世界という「異界」との接触は、宗教性を帯びる。キリスト教においてはキリスト両性論を根拠に、神の像 *imago Dei* としての人間が、失われた似像性を回復して神に至る営みとして肯定される。しかし仏教における金剛界／胎蔵界の曼荼羅との比較で明らかになるようにキリスト教のイコン *icon* は人間の意識構造の反映として宗教的意味を有する。こうした考察をとおして人間存在の理解につなげる。

4. 授業計画と予習・復習の内容及び必要な時間

回	テーマ・内容	予習・復習	備考
1	オリエンテーション…授業の進め方		
2	芸術が有する独自性・芸術の宗教性…美術というジャンル、芸術と宗教のつながり、人間存在に深く関わる <i>image</i> があることの基本的了解		
3	死と絵画—— <i>memento mori</i> ①	予習・復習	
4	死と絵画—— <i>memento mori</i> ②	予習・復習	
5	死と絵画—— <i>memento mori</i> ③	予習・復習	
6	宗教的 <i>image</i> とキリスト教①	予習・復習	
7	宗教的 <i>image</i> とキリスト教②	予習・復習	
8	宗教的 <i>image</i> とキリスト教③	1-7 回の復習	
9	聖像とイコノロジー①	予習・復習	
10	聖像とイコノロジー②	予習・復習	
11	聖像とイコノロジー③	予習・復習	
12	人間の空間的感覚・視覚的感覚と意味	予習・復習	

シラバス(公開版)

13	人間の情報処理のしくみとそこからみえてくる 人間存在①	予習・復習
14	人間の情報処理のしくみとそこからみえてくる 人間存在②	予習・復習
15	まとめおよび小テストまたはレポート	1-14 回の復習

予習・復習

(1) 予習の仕方

事前に提供された資料は読んでおくこと。そのため、意味の分らない用語があれば必ず調べておくこと。授業での考察が、科目の全体の中でどのような位置づけであるか確認しておくこと。

(2) 復習の仕方

各回の授業は、この科目の目的とどのように関連しているのか整理しておくこと。

目安の時間として、授業 1 コマにつき、予習 90 分、復習 90 分が必要。

※ 授業の展開によっては、変更の可能性があります。変更の場合には随時お知らせします。

5. 評価方法(テスト、レポート、課題等へのフィードバックの方法も含む)

- (1) 小テストまたはレポート(45%)…どちらにするかは授業を始めてから判断する。小テストの場合、1-14 回の授業内容に関するテーゼを、予め提示し、その中から一つあるいは複数選んで論述してもらう。授業のポイントを押さえてきちんと理解されているかを評価する。
- (2) 受講態度(10%)…出席点、授業での取り組み方、遅刻の頻度、等。授業内のコメントに基づいて判断する。
- (3) 授業内のコメント(45%)…各回授業の理解度、授業に望む姿勢を総合的に評価する。
- (4) ただし上記の割合は、授業開始後の状況により変更の場合があり、目安として考えてもらう。

6. 履修上の注意

- (1) 授業の中で、随時プリントを配布する。
- (2) 「キリスト教学」が履修済みであることが望ましい。
- (3) 特別な配慮を要する学生は、必ず科目担当者と連絡をとっておくこと。